

## カンボジアの給食事情

カンボジアの小学校授業は昼食を挟んで2部授業ですので、児童は学校で昼食を取りません。アンコールワットの在る大都市シエム・リエブから東に60キロの国道6号線沿いの町カンポン・クデイ近辺の農村にあるベン小学校の学校農園を訪問見学した折に、校長先生に給食事情をお聞きしました。

校長先生によると、この小学校では朝食を食べられない児童が多く、空腹で午前中の授業に支障が出るために、朝食支給を外国援助で賄っているとのことでした。納戸に保管の食材を見せてもらいました。米国援助局（USAID）からの粉ミルクとサバの缶詰、豆（ダール：ヒラ豆）などが積まれていました。外の小屋に設けた釜土で煮込んで調理することでした。校舎はベルギーからの寄贈で立派なコンクリート製でしたが、教室が不足しているために昔建てたニッパヤシの小屋を利用していました。この教室の児童達が元気に国家を歌ってくれました。中学高校大学などには簡易食堂があります。

日本の学校給食システムは今や優れものとして世界に広く知られており、世界の開発途上国、とりわけアフリカなどでは就学率向上、栄養不良軽減、親の負担軽減、そして集団教育効果を目的として導入されつつあるようです。それにしても日本の小学校の児童参加の給食システムは世界に誇れるものです。

（文責：吉田恒昭 2016年11月23日）



ベン小学校校門



ニッパ椰子吹きの教室



コンクリート校舎



朝給食の食材 豆・粉ミルク・サバ缶



屋外の調理カマド小屋